

短 報

富山県における外国産カブトムシ
(アトラスオオカブト属)の野外での発見例 3 題

岩田 朋文

富山市科学博物館 939-8084 富山市西中野町一丁目8-31

Three Records of Alien Rhinoceros
Beetles, *Chalcosoma* spp. in Toyama
Prefecture, Japan

Tomofumi Iwata

Toyama Science Museum

1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama 939-8084, Japan

1. はじめに

アトラスオオカブト属 *Chalcosoma* は、インドシナ半島から東南アジアにかけて分布するグループであり、現在4種が所属している(土屋・飯島, 2018)。本属を含む外国産カブト・クワガタ類は、1999年の植物防疫法規制緩和を受けて輸入量が急増し、日本国内でも生体を気軽に入手できるようになった(例えば、荒谷・細谷, 2010)。しかし、輸入量が急増する中で、こうした外国産カブト・クワガタ類が野外で採集される事例が増加しており、日本の生態系への影響が懸念されている(例えば、荒谷・細谷, 2010)。アトラスオオカブト属についても、輸入量が多く(例えば、荒谷・細谷, 2010)、野外採集例も相次いでいる(例えば、荒谷, 2003)。こうした背景を踏まえ、外国産カブト・クワガタ類は、2015年に公表された「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」で「定着を予防する外来種(定着予防外来種)」の「その他の定着予防外来種」に選定されている(環境省・農林水産省, 2015)。

筆者は、富山県の野外でアトラスオオカブト属のアトラスオオカブト *Chalcosoma atlas* (Linnaeus, 1758) とコーカサスオオカブト *Chalcosoma chiron* (Oliver, 1789) が発見された事例を3例把握しているため、同県初記録として報告する。本稿を記すにあたり、各標本には富山市科学博物館標本登録番号(TOYA-JI)を付与した。また、貴重な標本をご寄贈いただいた採集者の皆様にお礼申し上げる。

2. 記録

2.1. アトラスオオカブト

1♂, 富山市大島一丁目, 30.VIII.2003, 前田由起子採集, TOYA-JI-38312 (図1A, B)。

2.2. コーカサスオオカブト

1♂ (死骸), 上市町神明町 東橋, 6.X.2006, 伊東保男採取, TOYA-JI-38313 (図1C, D); 1♂ (死骸), 富山市上袋, 23.VIII.2021, 上田陽翔^{はると}採取, TOYA-JI-38314 (図1E)。

3. 発見状況

富山市のアトラスオオカブトは、コンビニの照明に飛来していたものが採集された。後述のコーカサスオオカブト2例と異なり、採集時には生きていたとのこと。上市町のコーカサスオオカブトは、東橋たもとの道路上で発見された。発見時にはすでに死亡していたとのこと。富山市のコーカサスオオカブトは、畑脇の草むらにおいて、頭部、前胸、前脚のみが発見された。

本稿で記録した各地点は、いずれも富山県の平野部に位置し、住宅地と畑地が混在する地域である。発見者はいずれも市民の方々であり、偶然発見した個体を当館までお持ちいただいたことで、今回の報告につながった。

4. 同定

本稿で記録したアトラスオオカブトは小型個体であるが、頭角先端が左右に強く開いていること、および胸角基部間の幅が広いことから本種と同定した(土屋・飯島, 2018)。ただし亜種以下の同定はできなかった。

本稿で記録したコーカサスオオカブトは、側面から見た時に頭角先端に山型突起があるため、2頭とも原名亜種 *C. c. chiron* と思われる(土屋・飯島, 2018)。

5. 考察

本稿により、富山県でも外国産カブトムシの野外への逸出が生じていることが明示された。しかも、筆者が把握しただけでも3例あったことから、実際にはより多くの逸出が起こっている可能性もある。

本稿で記録した3例は、いずれも発見場所や発見年に大きな隔りがあった。したがって、特定の事象(例えば、何らかのイベント開催など)に起因するものではなく、それぞれ個別に発生した事象と思われる。発見地点に住宅地を含むこと、および、発見個体数が1頭ずつであることなどから、ペットとして飼育されていた個体の逸出や飼育放棄などが要因の1つとして想像できる。

岡本・中村(2009)は、コーカサスオオカブト原名亜

種を用いた実験により、気温と地中温度の低下により幼虫が生存できないことを根拠として、少なくとも関西以北では同種の定着が（現時点では）困難であると述べている。富山県においても、例えば、観測地点「富山」の2021年における最低気温は11月が1.4℃、12月が-2.5℃であり、また、同平均気温は11月が11.7℃、12月が5.9℃であるため（気象庁、2022）、岡本・中村（2009）の表1を参照すると定着が困難な地域に含まれる。ただし、岡本・中村（2009）は、幼虫が生息深度を大きくしたり、たい肥の発酵熱を利用したりすることで越冬できる可能性が残ることを指摘しているほか、成虫生存期間中は、えさ場の競合により日本本土産カブトムシ *Trypoxylus dichotomus septentrionalis* の採餌行動に悪影響を及ぼす可能性が高いことなども述べており、楽観視はできない。

また、今回の報告は、発見者の市民が博物館まで情報提供してくださったことが契機となった。同様の事例は奥島（2003, 2006）や皆木（2017）など、アトラスオオカブト属に限っても複数ある。博物館が市民の発見を科学的な知見として記録し、地域の外来生物に関する情報蓄積にも寄与していることを改めて指摘しておきたい。

6. 引用文献

- 荒谷邦雄, 2003. ペットとして輸入される外国産コガネムシ上科甲虫の影響. 森林科学, 38 : 21-32.
- 荒谷邦雄・細谷忠嗣, 2010. 3. 日本のクワガタムシ・カブトムシ類における多様性喪失の危機的状況. 石井実 (監修) 環境Eco選書1 日本の昆虫の衰亡と保護, pp. 36-52. 北隆館.
- 環境省・農林水産省, 2015. 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報 (根拠情報). https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/fuka_animal.pdf [2022年3月10日参照].
- 気象庁, 2022. 富山 2021年 (月ごとの値) 主な要素.

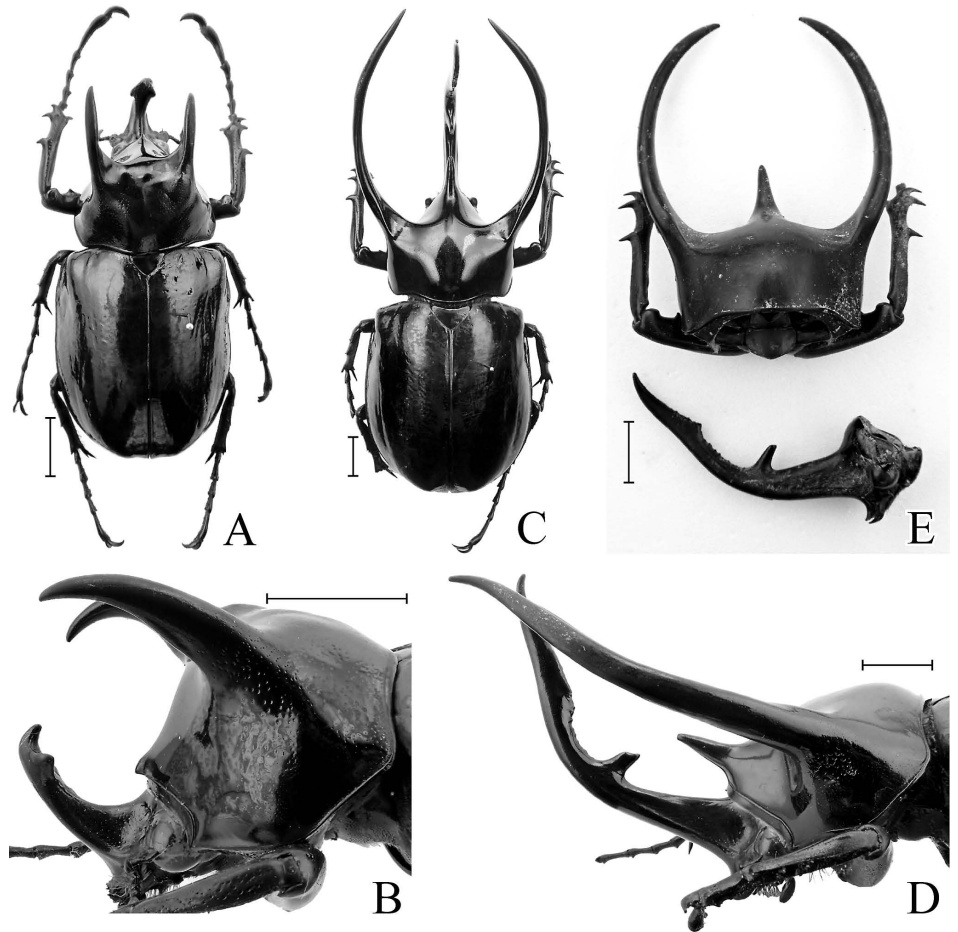


図1 富山県の野外で発見された外国産カブトムシ。A-B, 富山市のアトラスオオカブト；C-D, 上市町のコーカサスオオカブト；E, 富山市のコーカサスオオカブト。A, 全形；B, 頭部および前胸部拡大；C, 全形；D, 頭部および前胸部拡大；E, 発見された全部位。スケールバーは全て10.0 mm。

- http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/monthly_s1.php?prec_no=55&block_no=47607&year=2021&month=&day=&view= [2022年3月10日参照].
- 皆木宏明, 2017. 島根県美郷町で採集されたアトラスオオカブトについて. 島根県立三瓶自然館研究報告, 15 : 85-86.
- 岡本八寿祐・中村雅彦, 2009. コーカサスオオカブトムシの日本本土産カブトムシに対する生態リスク評価. 保全生態学研究, 14 : 193-202.
- 奥島雄一, 2003. 岡山県で採集されたアトラスオオカブトムシ (コウチュウ目, コガネムシ科). 倉敷市立自然史博物館研究報告, 18 : 25-26.
- 奥島雄一, 2006. 岡山県で再び採集されたアトラスオオカブトムシ (コウチュウ目, コガネムシ科). 倉敷市立自然史博物館研究報告, 21 : 79.
- 土屋利行・飯島和彦, 2018. カルコソマ大図鑑. ビー・クワ, 67 : 8-41. むし社.